

## 都道府県別概況

### 都道府県別概況

現在、都道府県別の観客数のデータは公開されていない。2019年まで都道府県別に映画館観客数を出していた「特定サービス産業実態調査」(経済産業省)は、経済構造統計に統合・再編されたことにより、2020年(令和2年)に廃止となり、2020年に出された新たな報告書では都道府県別入場者(観客)数は示されなくなった。本年鑑では、2014年から2019年に発表された「特定サービス産業実態調査報告書」をもとに、各年の観客数の総計に対して各都道府県の観客数が占める割合の平均値を計算、「日本映画産業統計」発表の2020年の全国の観客数に、この割合を乗じることで、各都道府県の観客数の概算値を算出することとした。

1人当たり年間鑑賞回数は、都道府県民1人が1年間に映画館で映画をみる回数を示したものである。2020年の観客数は、前年の約54.5%と大幅に減少、1人当たりの年間鑑賞本数も半減している。全国平均は0.8回で、1.0を上回ったのは東京(1.3)、神奈川(1.0)、京都(1.0)、大阪(1.0)の4都府県のみである。

スクリーン数は、当然ながら、大都市を擁する都道府県が上位を占めている。全体としては、2019年から2020年にかけてスクリーン数は42スクリーン増えている。2018-2019年57スクリーン増、2017年-2018年39スクリーン増、2016年-2017年39スクリーン増、2015年-2016年25スクリーン増と、この数年、コンスタントに増加を続けている。

1スクリーン当たり人口は、全国平均34,301人となっている。この数値が少ないほど、その地域にスクリーンが多い、住民にとって映画館が身近に存在していると考えられる。この数値が1万人台の「映画館が多い」県は石川(18,538)、山形(19,017)で、例年、この2県は年間鑑賞回数も全国平均を上回っている。スクリーン当たり人口が5万人を越える「映画館が少ない」県は、高知(68,858)、山梨(62,016)、福島(57,033)岩手(52,704)、長崎(52,426)、鳥取(50,127)の6県で、前年も同様であった。これらの県では年間鑑賞回数も低い数値に止まっている。しかし、映画館がない地域では公共ホールでの移動興行が盛んに行われていることが多く、興行の数値には現れない上映活動も多く存在しており、興行の数値のみで上映環境の豊かさを測ることはできないことも念頭におく必要がある。→ [fig. 26](#)

fig. 26  
都道府県別概況  
(2020)

	人口	映画館数	スクリーン数	年間観客数(概算)	1スクリーン当たり 人口	1スクリーン当たり		1人当たり			
						観客数		年間映画鑑賞回数			
						2019	2020	2019	2020		
全国合計	125,851,293	100%	595	3669	106,137,000	100%	34,301	53,891	28,928	1.5	0.8
1 北海道	5,250,049	4.2%	22	112	3,100,000	2.5%	46,875	50,702	27,679	1.1	0.6
2 青森	1,230,715	1.0%	8	44	640,000	0.5%	27,971	28,000	14,545	1.0	0.5
3 岩手	1,212,201	1.0%	7	23	470,000	0.4%	52,704	38,609	20,435	0.7	0.4
4 宮城	2,292,690	1.8%	10	78	1,820,000	1.4%	29,393	42,077	23,333	1.4	0.8
5 秋田	982,005	0.8%	5	20	430,000	0.3%	49,100	38,600	21,500	0.8	0.4
6 山形	1,064,954	0.8%	8	56	970,000	0.8%	19,017	31,054	17,321	1.6	0.9
7 福島	1,825,055	1.5%	5	32	760,000	0.6%	57,033	44,656	23,750	0.8	0.4
8 茨城	2,854,131	2.3%	15	91	2,040,000	1.6%	31,364	41,678	22,418	1.3	0.7
9 栃木	1,932,091	1.5%	9	64	1,640,000	1.3%	30,189	50,484	25,625	1.7	0.8
10 群馬	1,926,370	1.5%	8	52	1,680,000	1.3%	37,046	58,692	32,308	1.6	0.9
11 埼玉	7,343,453	5.8%	25	209	6,490,000	5.2%	35,136	56,450	31,053	1.6	0.9
12 千葉	6,281,394	5.0%	25	220	5,710,000	4.5%	28,552	47,850	25,955	1.7	0.9
13 東京	13,971,109	11.1%	83	413	18,270,000	14.5%	33,828	83,503	44,237	2.4	1.3
14 神奈川	9,216,009	7.3%	33	223	9,070,000	7.2%	41,327	83,970	40,673	1.8	1.0
15 新潟	2,199,746	1.7%	10	64	1,520,000	1.2%	34,371	43,453	23,750	1.3	0.7
16 富山	1,034,670	0.8%	4	27	740,000	0.6%	38,321	51,889	27,407	1.3	0.7
17 石川	1,130,801	0.9%	9	61	1,020,000	0.8%	18,538	30,672	16,721	1.6	0.9
18 福井	762,679	0.6%	5	27	560,000	0.4%	28,247	38,296	20,741	1.3	0.7
19 山梨	806,210	0.6%	4	13	500,000	0.4%	62,016	68,846	38,462	1.1	0.6
20 長野	2,034,971	1.6%	16	72	960,000	0.8%	28,263	24,208	13,333	0.9	0.5
21 岐阜	1,975,397	1.6%	8	56	1,390,000	1.1%	35,275	45,268	24,821	1.3	0.7
22 静岡	3,618,972	2.9%	16	106	2,900,000	2.3%	34,141	49,915	27,358	1.5	0.8
23 愛知	7,541,123	6.0%	37	281	7,470,000	5.9%	26,837	45,990	26,584	1.8	1.0
24 三重	1,768,632	1.4%	10	63	1,370,000	1.1%	28,074	39,476	21,746	1.4	0.8
25 滋賀	1,412,415	1.1%	6	38	970,000	0.8%	37,169	47,026	25,526	1.3	0.7
26 京都	2,568,427	2.0%	15	85	2,670,000	2.1%	30,217	61,250	31,412	1.9	1.0
27 大阪	8,817,372	7.0%	32	224	8,930,000	7.1%	39,363	74,455	39,866	1.9	1.0
28 兵庫	5,438,891	4.3%	24	120	3,750,000	3.0%	45,324	60,758	31,250	1.3	0.7
29 奈良	1,322,970	1.1%	4	34	860,000	0.7%	38,911	48,412	25,294	1.2	0.7
30 和歌山	914,055	0.7%	5	30	580,000	0.5%	30,469	34,600	19,333	1.1	0.6
31 鳥取	551,402	0.4%	3	11	200,000	0.2%	50,127	39,545	18,182	0.8	0.4
32 島根	666,941	0.5%	2	15	460,000	0.4%	44,463	57,000	30,667	1.3	0.7
33 岡山	1,882,356	1.5%	6	38	1,350,000	1.1%	49,536	61,333	35,526	1.3	0.7
34 広島	2,794,862	2.2%	15	79	2,190,000	1.7%	35,378	51,051	27,722	1.4	0.8
35 山口	1,340,044	1.1%	5	30	780,000	0.6%	44,668	44,800	26,000	1.0	0.6
36 徳島	721,721	0.6%	3	19	300,000	0.2%	37,985	25,684	15,789	0.7	0.4
37 香川	949,358	0.8%	5	26	820,000	0.7%	36,514	54,077	31,538	1.5	0.9
38 愛媛	1,326,487	1.1%	10	59	790,000	0.6%	22,483	24,881	13,390	1.1	0.6
39 高知	688,583	0.5%	2	10	370,000	0.3%	68,858	67,818	37,000	1.1	0.5
40 福岡	5,108,038	4.1%	24	177	4,610,000	3.7%	28,859	48,383	26,045	1.7	0.9
41 佐賀	808,821	0.6%	4	21	470,000	0.4%	38,515	40,524	22,381	1.0	0.6
42 長崎	1,310,660	1.0%	4	25	730,000	0.6%	52,426	53,640	29,200	1.0	0.6
43 熊本	1,735,901	1.4%	9	58	970,000	0.8%	29,929	31,931	16,724	1.1	0.6
44 大分	1,124,983	0.9%	10	44	750,000	0.6%	25,568	38,114	17,045	1.2	0.7
45 宮崎	1,063,324	0.8%	6	25	480,000	0.4%	42,533	50,222	19,200	0.8	0.5
46 鹿児島	1,589,416	1.3%	7	39	790,000	0.6%	40,754	37,795	20,256	0.9	0.5
47 沖縄	1,458,839	1.2%	12	55	790,000	0.6%	26,524	26,364	14,364	1.0	0.5

人口 総務省統計局発表「人口推計」(2020年10月1日現在)参照

映画館数・スクリーン数「映画年鑑2020」別冊「映画館名簿」(キネマ旬報社刊)及びコミュニティシネマセンター調査より作成  
年間観客数「日本映画産業統計」(日本映画製作者連盟)には都道府県別の観客数は示されていない。

2019年まで公表されていた「特定サービス産業実態調査報告書 映画館編」(経済産業省発表)では、都道府県別入場者(観客)数が示されているが、「日本映画産業統計」の全国入場者数と若干の齟齬がある。

本年鑑では、2014年から2019年に発表された「特定サービス産業実態調査報告書」をもとに、

各年の観客数の総計に対して各都道府県の観客数が占める割合の平均値を計算、

「日本映画産業統計」発表の2020年の全国の観客数に、この割合を乗じることで、

各都道府県の観客数の概算値を算出し、2020年の「都道府県別観客数」としている。

## 都道府県別[スクリーン数]

2011年から2020年の10年間で、全国のスクリーン数は3,496から3,669となり、173スクリーン増加している。2011年3月11日に東日本大震災があり、同時期に映画館のデジタル化(フィルムからDCPへの移行)という大きな変化への対応も求められることとなり、2011-2012年にはスクリーン数が3,496から3,350と、146スクリーンも減少したが、2013年以降は再び増加に転じ、それ以降はコンスタントに増加を続けている。

大幅にスクリーン数が増えている都道府県は、東京(49増)、千葉(30増)、愛知(23増)、沖縄(23増)である。この10年間でシネコンは73サイト690スクリーン新設されているが、このうち、11サイトが東京都に、7サイトが千葉県に、5サイトが愛知と福岡につくられている。

この10年間のスクリーン増を牽引してきたのが、「TOHOシネマズ」と「イオンシネマ」である。イオンシネマ(2013年までは「ワーナー・マイカルシネマ」)は、2011年以降21サイト201スクリーンを開館しており、国内最大のシネコンチェーンとなっている。また、TOHOシネマズも、この10年で18サイト170スクリーンをオープン、特に、2016年以降は、日本橋、新宿、上野、日比谷、池袋といった都心に次々に新たなシネコンを開館してきた。この2社以外では、シネマサンシャインが5サイト44スクリーン、ユナイテッド・シネマが7サイト73スクリーンをオープンしている。

この10年間で閉館したシネコンは、32サイト275スクリーンで、スクリーン数が10以上減少した都道府県は、北海道(15減)、宮城(17減)、山梨(18減)、群馬(19減)、岐阜(20減)で、これらの道県ではいずれも1-3サイトのシネコンが閉館している。→ [fig. 27](#)

fig. 27  
都道府県別  
スクリーン数の推移  
(2011-2020)

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020		2011→2020	2019→2020
全国	3,496	3,350	3,361	3,410	3,467	3,492	3,531	3,570	3,627	3,669		173	42
1 北海道	127	121	120	117	113	114	114	114	114	112	3.1%	-15	-2
2 青森	45	45	44	44	44	44	44	44	44	44	1.2%	-1	0
3 岩手	27	26	25	25	25	25	23	23	23	23	0.6%	-4	0
4 宮城	95	64	64	64	64	73	72	78	78	78	2.2%	-17	0
5 秋田	23	23	22	22	22	22	20	20	20	20	0.6%	-3	0
6 山形	47	47	47	56	56	56	56	56	56	56	1.5%	9	0
7 福島	28	28	27	27	26	26	26	35	32	32	0.9%	4	0
8 茨城	88	86	96	89	89	89	90	90	90	91	2.5%	3	1
9 栃木	57	57	57	57	55	64	64	64	64	64	1.8%	7	0
10 群馬	71	71	62	61	61	61	61	63	52	52	1.4%	-19	0
11 埼玉	193	184	200	200	209	209	209	209	209	209	5.8%	16	0
12 千葉	190	183	199	199	208	208	209	209	220	220	6.1%	30	0
13 東京	364	358	345	350	359	362	365	378	398	413	11.0%	49	15
14 神奈川	226	217	216	218	219	209	210	199	202	223	5.6%	-3	21
15 新潟	66	66	65	65	64	64	64	64	64	64	1.8%	-2	0
16 富山	24	24	24	24	24	32	26	27	27	27	0.7%	3	0
17 石川	54	54	54	54	54	54	61	61	61	61	1.7%	7	0
18 福井	31	31	31	31	31	31	31	27	27	27	0.7%	-4	0
19 山梨	31	18	18	14	14	14	14	13	13	13	0.4%	-18	0
20 長野	68	65	64	63	63	63	72	72	72	72	2.0%	4	0
21 岐阜	76	60	60	56	56	51	56	56	56	56	1.5%	-20	0
22 静岡	110	99	98	98	97	96	96	96	106	106	2.9%	-4	0
23 愛知	258	251	247	258	258	275	293	292	295	281	8.1%	23	-14
24 三重	48	48	58	58	58	58	58	63	63	63	1.7%	15	0
25 滋賀	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	1.0%	0	0
26 京都	66	66	65	76	75	75	78	78	80	85	2.2%	19	5
27 大阪	211	205	198	206	226	224	224	224	224	224	6.2%	13	0
28 兵庫	123	111	120	117	127	121	121	119	120	120	3.3%	-3	0
29 奈良	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	0.9%	0	0
30 和歌山	22	21	21	30	30	30	30	30	30	30	0.8%	8	0
31 鳥取	14	14	11	11	11	11	11	11	11	11	0.3%	-3	0
32 島根	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	0.4%	0	0
33 岡山	28	28	28	39	39	39	39	39	39	38	1.1%	10	-1
34 広島	83	78	78	77	72	72	71	80	79	79	2.2%	-4	0
35 山口	35	25	25	32	30	30	30	30	30	30	0.8%	-5	0
36 徳島	9	10	10	10	10	10	19	19	19	19	0.5%	10	0
37 香川	26	26	26	26	25	26	26	26	26	26	0.7%	0	0
38 愛媛	52	52	52	52	52	59	59	59	59	59	1.6%	7	0
39 高知	11	11	11	10	10	10	11	11	11	10	0.3%	-1	-1
40 福岡	181	189	185	185	185	178	164	175	175	177	4.8%	-4	2
41 佐賀	20	20	20	20	20	20	20	20	21	21	0.6%	1	0
42 長崎	30	26	26	26	26	25	25	25	25	25	0.7%	-5	0
43 熊本	51	50	50	50	50	49	49	49	58	58	1.6%	7	0
44 大分	27	25	25	25	35	35	35	36	35	44	1.0%	17	9
45 宮崎	18	18	18	18	18	18	18	18	18	25	0.5%	7	7
46 鹿児島	23	30	30	31	30	31	39	39	39	39	1.1%	16	0
47 沖縄	32	32	32	32	40	42	41	42	55	55	1.5%	23	0

『映画年鑑』別冊「映画館名簿」(時事映画通信社刊/キネマ旬報社刊)、『映画上映活動年鑑』(コミュニシネマセンター刊)参照

## 都道府県別にみる

## 種類別映画館数・スクリーン数の変化

(2011-2020)

各地方の都道府県別に種類ごとに映画館数、スクリーン数が10年間でどのように推移しているかをみている。

## 北海道・東北地方

[北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島]

北海道・東北地方全体の2020年のスクリーン数は365、映画館数は65で、いずれも2011年比では減少している。(スクリーン数27減、館数19減)日本全体に占めるスクリーン数の割合は、10.0%、映画館数は10.9%となっている。この10年間の人口の増減はマイナス5.8%(全国平均マイナス1.5%)で、他の地方と比較すると人口減少のスピードがかなり早い。全人口の11.0%を占めている。

北海道(46,875人)、岩手(52,704人)、秋田(49,100人)、福島(57,033人)の4道県は、1スクリーン当たり人口が平均(34,301人)よりかなり多い「映画館が少ない」県となっている。

10年間の変化としては、北海道の10館15スクリーン減、宮城県の4館17スクリーン減が目立っている。北海道では、2011-2015年にかけて、既存興行館やミニシアター(「札幌東宝プラザ」(2011)、「ディノスシネマ」(2011))「蠟座」(2014)、「CINEとかちプリンス劇場」(2012)、「シアターボイス」(2013)等)が相次いで閉館し、旭川市、美瑛市、名寄町にそれぞれ1館あった既存興行館も閉館している。2020年7月、「札幌東宝プラザ」閉館後、貸館となっていた劇場が「サツゲキ」(4スクリーン)としてリニューアルオープンしている。

宮城県の映画館は東日本大震災で大きな被害を受けた。石巻市の「岡田劇場」が被災・閉館し、仙台市のシネコン2館(仙台コロナワールド、泉コロナワールド)が休館から閉館に至り、95スクリーンあった映画館は64スクリーンにまで減少した。その後2016年、仙台市に「TOHOシネマズ仙台」が開館、2018年には震災後休館していた「シアターフォルテ」が「ユナイテッド・シネマフォルテ宮城大原」として再開、スクリーン数は78スクリーンに回復した。2020年10

fig. 28

北海道・東北地方

北海道・東北地方の人口		全国シェア
2020	13,859,689	11.0%
2011	14,717,500	11.5%
増減(人)	-857,811	
増減率(%)	-5.8%	

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
<b>北海道・東北地方</b>								
シネコン	41	311	41	315	0	-4	-1	-6
ミニシアター/名画座	8	21	12	23	-4	-2	1	4
既存興行館等	13	30	26	48	-13	-18	0	0
成人映画館	3	3	5	6	-2	-3	0	0
シネコン以外	24	54	43	77	-19	-23	1	4
<b>北海道・東北地方合計</b>	<b>65</b>	<b>365</b>	<b>84</b>	<b>392</b>	<b>-19</b>	<b>-27</b>	<b>0</b>	<b>-2</b>
全国シェア	10.9%	10.0%	12.4%	11.2%				
<b>北海道</b>								
シネコン	11	87	12	93	-1	-6	-1	-6
ミニシアター/名画座	4	8	6	7	-2	1	1	4
既存興行館等	5	15	11	24	-6	-9	0	0
成人映画館	2	2	3	3	-1	-1	0	0
シネコン以外	11	25	20	34	-9	-9	1	4
<b>北海道合計</b>	<b>22</b>	<b>112</b>	<b>32</b>	<b>127</b>	<b>-10</b>	<b>-15</b>	<b>0</b>	<b>-2</b>
<b>青森県</b>								
シネコン	5	38	5	38	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	1	2	1	2	0	0	0	0
既存興行館等	1	3	2	4	-1	-1	0	0
成人映画館	1	1	1	1	0	0	0	0
シネコン以外	3	6	3	6	-1	-1	0	0
<b>青森県合計</b>	<b>8</b>	<b>44</b>	<b>9</b>	<b>45</b>	<b>-1</b>	<b>-1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>岩手県</b>								
シネコン	2	14	2	14	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	1	3	1	3	0	0	0	0
既存興行館等	4	6	6	10	-2	-4	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	5	9	7	13	-2	-4	0	0
<b>岩手県合計</b>	<b>7</b>	<b>23</b>	<b>9</b>	<b>27</b>	<b>-2</b>	<b>-4</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>宮城県</b>								
シネコン	8	72	9	85	-1	-13	0	0
ミニシアター/名画座	1	3	2	4	-1	-1	0	0
既存興行館等	1	3	2	4	-1	-1	0	0
成人映画館	0	0	1	2	-1	-2	0	0
シネコン以外	2	6	5	10	-3	-4	0	0
<b>宮城県合計</b>	<b>10</b>	<b>78</b>	<b>14</b>	<b>95</b>	<b>-4</b>	<b>-17</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>秋田県</b>								
シネコン	3	18	3	18	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	1	1	2	3	-1	-2	0	0
既存興行館等	1	1	2	2	-1	-1	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	2	2	4	5	-2	-3	0	0
<b>秋田県合計</b>	<b>5</b>	<b>20</b>	<b>7</b>	<b>23</b>	<b>-2</b>	<b>-3</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

月に利府市の「MOVIX利府」が閉館したが、2021年3月には「イオンシネマ新利府」が開館している。2018年に永年親しまれてきたミニシアター「桜井薬局セントラルホール」が閉館し、仙台市のミニシアターは「フォーラム仙台」のみとなった。

岩手県では、東日本大震災後、沿岸部を中心に移動上映を続けてきたみやこ映画生協が運営する映画館「みやこシネマリン」が2016年9月に閉館し、岩手県沿岸部には映画館がなくなった。

秋田県では、秋田駅の駅ビル「アルヴェ」内にある映画館「ルミエール秋田」(5スクリーン)が2020年5月に閉館したが、12月に3スクリーンの映画館「アルヴェシアター」として再開することとなり、映画ファンを安堵させた。秋田市では「秋田フォーラス・シネマ・パレ」や「シアタープレイタウン」が閉館してミニシアターがなくなったが、2014年大館市に残っていた古い映画館「御成座」を移住してきた家族が再開、様々な話題を提供する人気の映画館となっている。

北海道・東北地方で、スクリーン数が増加しているのは、2014年に「イオンシネマ天童」が開館した山形県と、2018年に「ポレポレシネマズいわき小名浜」が開館した福島県である。山形県の場合、比較的早い時期に地元の興行者自ら既存館からシネコンへ移行したことがスクリーン数を保持し続けている背景にある。2010年山形県鶴岡市に開館した、まちづくり会社が運営する「鶴岡まちなかキネマ」がコロナ禍の中2020年5月に閉館、市民や全国映画ファンから再開を求める多くの声が寄せられ、現在も再開に向けて検討が進められている。

三陸沿岸部に限らず、この地方は映画館の空白地域が非常に広く、移動興行が盛んに行われてきた歴史がある。みやこ映画生協は「みやこシネマリン」を閉館したが、宮古、釜石、大槌、岩泉町等での移動上映や公共ホールでの上映会に積極的に協力、映画祭も開催している。宮古市には新しい上映の場「シネマ・デ・アエル」ができた。人口の減少が進む中、映画館のない地域で、映画館に代わって映画文化・スクリーン体験を提供する活動は、今後さらに重要性を増すものと考えられる。→ [fig. 28](#)

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
<b>山形県</b>								
シネコン	7	51	6	42	1	9	0	0
ミニシアター/名画座	0	3	0	3	0	0	0	0
既存興行館等	1	2	1	2	0	0	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	1	5	1	5	0	0	0	0
<b>山形県合計</b>	<b>8</b>	<b>56</b>	<b>7</b>	<b>47</b>	<b>1</b>	<b>9</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>福島県</b>								
シネコン	5	31	4	25	1	6	0	0
ミニシアター/名画座	0	1	0	1	0	0	0	0
既存興行館等	0	0	2	2	-2	-2	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	0	1	2	3	-2	-2	0	0
<b>福島県合計</b>	<b>5</b>	<b>32</b>	<b>6</b>	<b>28</b>	<b>-1</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 関東地方

[茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川]

関東地方の2020年のスクリーン数は1,272、映画館数は198で、2011年比で映画館数は20減少したが、スクリーン数は83増加している。日本全体に占める割合は、スクリーン数で34.7%、映画館数で33.2%となっている。この10年間の人口の増減はプラス2.1%(全国平均マイナス1.5%)で、全人口の34.6%を占めている。

関東地方ではこの10年間で26のシネコンが開館しているが、このうち24館が東京、埼玉、千葉、神奈川という首都圏に作られている。

なかでも、東京では2014年以降に9館のシネコンがオープン。2020年7月には、池袋の豊島区庁舎・公会堂跡地につくられた官民連携施設「Hareza池袋」内に「TOHOシネマズ池袋」(10スクリーン)がオープン、9月には立川市に「TOHOシネマズ立飛」が開館している。10年間でシネコンが8館92スクリーン増加したのに対し、シネコン以外は28館43スクリーン減少している。2011年以降、15館のミニシアター/名画座が閉館、ミニシアター文化の象徴的な存在でもあった「シネマライズ」が2016年に閉館した際には注目を集めた。また、「TOHOシネマズ日劇」(2018)「銀座シネパトス」(2013)「浅草名画座」(2012)、「新橋文化劇場/新橋ロマン劇場」(2014)「三軒茶屋シネマ」(2014)「新宿ミラノ座」(2014)「上野東急」(2012)といった長年映画ファンに親しまれ、東京の映画文化を彩ってきた多くの既存興行館が閉館している。2020年には「ユジク阿佐ヶ谷」が長期休館から再開することなく閉館している。その一方で、日本初のバリアフリー映画館「シネマ・チュップキ田端」(2016)、5スクリーンのミニシアター「アップリンク吉祥寺」(2018)や木下グループによるミニシアター「キノシネマ立川高島屋SC」(2019)など、7つのミニシアターが開館、2021年開館を予定しているミニシアターもある。現在も東京の映画館地図は変化を続けている。

神奈川県では10年間で「イオンシネマつきみの」「109シネマズMM横浜」「MOVIX本牧」の3つのシネコンが開館したが、2020年6月には「イオンシネマ座間」と、横浜駅駅ビル「NeWoMan横浜」内に「T・ジョイ横浜」(9スクリーン)が開館し

fig. 29  
関東地方

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
<b>関東地方</b>								
シネコン	121	1,135	111	1,006	10	129	4	40
ミニシアター/名画座	56	94	56	88	0	6	-1	-1
既存興行館等	17	36	40	80	-23	-44	-1	-2
成人映画館	4	7	11	15	-7	-8	0	0
シネコン以外	77	137	107	183	-30	-46	-2	-3
<b>関東地方合計</b>	<b>198</b>	<b>1,272</b>	<b>218</b>	<b>1,189</b>	<b>-20</b>	<b>83</b>	<b>2</b>	<b>37</b>
全国シェア	33.2%	34.7%	32.1%	34.0%				
<b>茨城県</b>								
シネコン	10	84	10	80	0	4	0	0
ミニシアター/名画座	1	1	0	0	1	1	0	0
既存興行館等	3	5	3	7	0	-2	1	1
成人映画館	1	1	1	1	0	0	0	0
シネコン以外	5	7	4	8	1	-1	1	1
<b>茨城県合計</b>	<b>15</b>	<b>91</b>	<b>14</b>	<b>88</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>1</b>
<b>栃木県</b>								
シネコン	7	60	6	52	1	8	0	0
ミニシアター/名画座	1	3	1	3	0	0	0	0
既存興行館等	1	1	1	1	0	0	0	0
成人映画館	0	0	1	1	-1	-1	0	0
シネコン以外	2	4	3	5	-1	-1	0	0
<b>栃木県合計</b>	<b>9</b>	<b>64</b>	<b>9</b>	<b>57</b>	<b>0</b>	<b>7</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>群馬県</b>								
シネコン	5	47	7	67	-2	-20	0	0
ミニシアター/名画座	3	5	2	4	1	1	0	0
既存興行館等	0	0	0	0	0	0	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	3	5	2	4	1	1	0	0
<b>群馬県合計</b>	<b>8</b>	<b>52</b>	<b>9</b>	<b>71</b>	<b>-1</b>	<b>-19</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>埼玉県</b>								
シネコン	22	204	20	186	2	18	0	0
ミニシアター/名画座	2	2	2	2	0	0	0	0
既存興行館等	1	3	2	5	-1	-2	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	3	5	4	7	-1	-2	0	0
<b>埼玉県合計</b>	<b>25</b>	<b>209</b>	<b>24</b>	<b>193</b>	<b>1</b>	<b>16</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>千葉県</b>								
シネコン	22	214	20	180	2	34	0	0
ミニシアター/名画座	2	4	1	1	1	3	0	0
既存興行館等	1	2	4	9	-3	-7	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	3	6	5	10	-2	-4	0	0
<b>千葉県合計</b>	<b>25</b>	<b>220</b>	<b>25</b>	<b>190</b>	<b>0</b>	<b>30</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

関東地方の人口	全国シェア
2020	43,524,557 34.6%
2011	42,633,585 33.4%
増減(人)	890,972
増減率(%)	2.1%

た。シネコン以外では、永年、地元の映画ファンに愛されてきた伊勢佐木町の「横浜ニューテアトル」が2018年に閉館した一方、この10年で「横浜シネマリン」「シネマノヴェチエント」「キノシネマ横浜みなとみらい」「シネコヤ」「あつぎのえいがかんkiki」という5つのミニシアターが開館している。また、2019年10月の台風19号により、川崎市市民ミュージアムが大規模な浸水被害を受け、映画フィルムなど、収蔵されていた映画関連資料も大きな被害を受けており、現在もレスキュー作業が続いている。

群馬県では、「太田コロナワールド」と「プレビ伊勢崎」という2つのシネコンが閉館し、1館19スクリーン減少しているが、高崎市では、2014年に歴史ある映画館「高崎映画館」が名画座として再生・復活した。

茨城県では、2017年那珂市にミニシアター「あまや座」、日立市に「シネマサンライズ日立」が開館した。→ [fig. 29](#)

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
<b>東京都</b>								
シネコン	33	321	25	229	8	92	2	19
ミニシアター/名画座	39	66	46	73	-7	-7	-1	-1
既存興行館等	9	22	25	52	-16	-30	-2	-3
成人映画館	2	4	7	10	-5	-6	0	0
シネコン以外	50	92	78	135	-28	-43	-3	-4
<b>東京都合計</b>	<b>83</b>	<b>413</b>	<b>103</b>	<b>364</b>	<b>-20</b>	<b>49</b>	<b>-1</b>	<b>15</b>
<b>神奈川県</b>								
シネコン	22	205	23	212	-1	-7	2	21
ミニシアター/名画座	8	13	4	5	4	8	0	0
既存興行館等	2	3	5	6	-3	-3	0	0
成人映画館	1	2	2	3	-1	-1	0	0
シネコン以外	11	18	11	14	0	4	0	0
<b>神奈川県合計</b>	<b>33</b>	<b>223</b>	<b>34</b>	<b>226</b>	<b>-1</b>	<b>-3</b>	<b>2</b>	<b>21</b>

## 中部地方

[新潟・富山・石川・福井・山梨・長野・岐阜・静岡・愛知]

中部地方の2020年のスクリーン数は707、映画館数は109で、2011年比で映画館数は24減、スクリーン数は11減となっている。日本全体に占める割合は、スクリーン数で19.3%、映画館数で18.3%となっている。この10年間の人口の増減はマイナス2.5%(全国平均マイナス1.5%)で、愛知県以外では人口が減少している。全人口の16.8%を占めている。

愛知ではこの10年間で5つのシネコンがオープンし、スクリーン数の増加が続いていたが、2019年に「キノシタホール」(名古屋市/1スクリーン)、「トヨタランド」(豊田市/2スクリーン)、「半田コロナシネマワールド」(11スクリーン)、2020年11月には「TOHOシネマズ・名古屋ベシテイ」(12スクリーン)が相次いで閉館し、スクリーン数が減少に転じている。とはいえ、愛知県は1スクリーン当たりの人口が26,837人で、大都市を擁する県では最もスクリーンの多い県となっている。

石川県は人口に対するスクリーン数が日本で一番多い県である。この10年間では2017年の「イオンシネマ新小松」の開館以外、大きな変化がなかったが、2020年3月、60年以上の歴史をもつ金沢市の映画館「駅前シネマ」が閉館した。

新潟、福井、山梨、岐阜、静岡では映画館数、スクリーン数共に減少している。特に山梨県の18スクリーン減、岐阜県の20スクリーン減が目立っている。山梨県では、2011年に「グランパーク東宝」(8スクリーン)、「甲府武蔵野シネマ・ファイブ」(5スクリーン)が閉館したのに続いて、「甲宝シネマ」(2013)「テアトル石和」(2018)という2つの歴史ある映画館が閉館している。岐阜では、2011年に16スクリーンのシネコン「ユナイテッド・シネマ真正」、2014年に飛騨唯一の映画館「高山旭座」が惜しまれながら閉館している。岐阜市の「ロイヤル劇場」「CINEX」は、現在では、主にミニシアター系のプログラムを上映している。

既存興行館、成人映画館は、いずれの都道府県でも減少しているが、新潟県「高田世界館」、長野県「長野ロキシー/長野松竹相生座」「上

fig. 30  
中部地方

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
<b>中部地方</b>								
シネコン	69	639	67	606	2	33	-1	-11
ミニシアター/名画座	20	31	18	26	2	5	-2	-3
既存興行館等	10	27	31	68	-21	-41	0	0
成人映画館	10	10	17	18	-7	-8	-1	-1
シネコン以外	40	68	66	112	-26	-44	-3	-4
<b>中部地方合計</b>	<b>109</b>	<b>707</b>	<b>133</b>	<b>718</b>	<b>-24</b>	<b>-11</b>	<b>-4</b>	<b>-15</b>
全国シェア	18.3%	19.3%	19.6%	20.5%				
<b>新潟県</b>								
シネコン	7	61	7	59	0	2	0	0
ミニシアター/名画座	3	3	3	3	0	0	0	0
既存興行館等	0	0	1	1	-1	-1	0	0
成人映画館	0	0	3	3	-3	-3	-1	-1
シネコン以外	3	3	7	7	-4	-4	-1	-1
<b>新潟県合計</b>	<b>10</b>	<b>64</b>	<b>14</b>	<b>66</b>	<b>-4</b>	<b>-2</b>	<b>-1</b>	<b>-1</b>
<b>富山県</b>								
シネコン	3	26	3	23	0	3	0	0
ミニシアター/名画座	1	1	1	1	0	0	0	0
既存興行館等	0	0	0	0	0	0	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	1	1	1	1	0	0	0	0
<b>富山県合計</b>	<b>4</b>	<b>27</b>	<b>4</b>	<b>24</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>石川県</b>								
シネコン	7	59	6	52	1	7	0	0
ミニシアター/名画座	1	1	1	1	0	0	0	0
既存興行館等	0	0	0	0	0	0	0	0
成人映画館	1	1	1	1	0	0	0	0
シネコン以外	2	2	2	2	0	0	0	0
<b>石川県合計</b>	<b>9</b>	<b>61</b>	<b>8</b>	<b>54</b>	<b>1</b>	<b>7</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>福井県</b>								
シネコン	3	22	3	22	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	1	1	1	1	0	0	0	0
既存興行館等	1	4	2	8	-1	-4	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	2	5	3	9	-1	-4	0	0
<b>福井県合計</b>	<b>5</b>	<b>27</b>	<b>6</b>	<b>31</b>	<b>-1</b>	<b>-4</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>山梨県</b>								
シネコン	1	9	3	22	-2	-13	0	0
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0	0	0
既存興行館等	2	3	4	8	-2	-5	0	0
成人映画館	1	1	1	1	0	0	0	0
シネコン以外	3	4	5	9	-2	-5	0	0
<b>山梨県合計</b>	<b>4</b>	<b>13</b>	<b>8</b>	<b>31</b>	<b>-4</b>	<b>-18</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>長野県</b>								
シネコン	7	53	6	45	1	8	0	0
ミニシアター/名画座	3	5	2	4	1	1	0	0
既存興行館等	5	13	8	17	-3	-4	0	0
成人映画館	1	1	2	2	-1	-1	0	0
シネコン以外	9	19	12	23	-3	-4	0	0
<b>長野県合計</b>	<b>16</b>	<b>72</b>	<b>18</b>	<b>68</b>	<b>-2</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>岐阜県</b>								
シネコン	5	50	6	66	-1	-16	0	0
ミニシアター/名画座	1	3	0	0	1	3	-1	-2
既存興行館等	1	2	3	9	-2	-7	1	2
成人映画館	1	1	1	1	0	0	0	0
シネコン以外	3	6	4	10	-1	-4	0	0
<b>岐阜県合計</b>	<b>8</b>	<b>56</b>	<b>10</b>	<b>76</b>	<b>-2</b>	<b>-20</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

中部地方の人口	全国シェア
2020	21,104,569 16.8%
2011	21,653,262 16.9%
増減(人)	-550,693
増減率(%)	-2.5%

田映劇]「塩尻東座」は、いずれも、番組編成をミニシアター/名画座的なプログラムに移行して、新たなイメージで運営を継続している。長野市では既存興行館「シネマポイント」が2020年6月に閉館している。

静岡県では、この10年で既存興行館8館と成人映画館1館が閉館しており、既存興行館は「静岡東宝会館」のみとなった。新潟県、富山県にはすでに既存興行館、成人映画館はない。福井県では100年の歴史を持つ「福井シネマ」が2018年に閉館した。

富山県では、2016年にシネコン「JMAXシアターとやま」がオープン、2018年に「富山シアター大都会」が閉館している。2016年にまちづくり会社が運営するミニシアター「フォルツァ総曲輪」が閉館、「ほとり座」が開館してフォルツァ総曲輪のプログラムを引き継いでいたが、2020年にはほとり座が、リノベーションされたフォルツァ総曲輪跡地に移転、新「ほとり座」が開館した。ほとり座は、富山県高岡市でも、飲食店「Da Friends」を“ほとり座サテライト館”として上映を行っている。

新潟県では、人口5万人の新潟県十日町市で10年間運営を続けてきたミニシアター「十日町シネマパラダイス」が2018年に閉館した。一方、佐渡島でカフェシネマ「ガシマシネマ」が週5日の上映を始めている。→ fig. 30

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
<b>静岡県</b>								
シネコン	11	96	10	86	1	10	0	0
ミニシアター/名画座	2	3	2	3	0	0	0	0
既存興行館等	1	5	9	18	-8	-13	0	0
成人映画館	2	2	3	3	-1	-1	0	0
シネコン以外	5	10	14	24	-9	-14	0	0
<b>静岡県合計</b>	<b>16</b>	<b>106</b>	<b>24</b>	<b>110</b>	<b>-8</b>	<b>-4</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>愛知県</b>								
シネコン	25	263	23	231	2	32	-1	-11
ミニシアター/名画座	8	14	8	13	0	1	-1	-1
既存興行館等	0	0	4	7	-4	-7	-1	-2
成人映画館	4	4	6	7	-2	-3	0	0
シネコン以外	12	18	18	27	-6	-9	-2	-3
<b>愛知県合計</b>	<b>37</b>	<b>281</b>	<b>41</b>	<b>258</b>	<b>-4</b>	<b>23</b>	<b>-3</b>	<b>-14</b>

## 近畿地方

近畿地方の2020年のスクリーン数は594、映画館数は96で、2011年比で映画館数は16減少しているが、スクリーン数は52増加している。日本全体に占める割合は、スクリーン数は16.2%、映画館数は16.1%となっている。この10年間の人口の増減はマイナス2.1%(全国平均マイナス1.5%)で全人口の17.7%を占め、いずれの府県も10年前より人口が減少している。

この10年でスクリーン数が大幅に増えているのは、三重(15増)と京都(19増)である。

京都では、2014年に京都市内に12スクリーンの「イオンシネマ京都桂川」、2017年にミニシアター「出町座」が開館、2019年8月には「京都みなみ会館」がスクリーン数を1から3に増やして再開し、2020年4月には「アップリンク京都」が開館した。また、西舞鶴には、2019年に夜と週末のみ上映を行う“準・映画館”(カフェシネマ)「シネ・グルージャ」が開館した。他方、「新京極シネラリーベ」「祇園会館」という歴史ある映画館が閉館、営業を終了している。

都心部においては既存興行館からシネコンへの移行が進み、特に兵庫、大阪の既存興行館の閉館が目立っている。大阪では10年間で7館が閉館し、既存興行館は0となった。また、2020年2月に東大阪市のシネコン「布施ライオンシネマ」(7スクリーン)が閉館している。

兵庫県でも10年間で既存興行館6館が閉館しているが、「豊岡劇場」は、経営者が変わり、大規模なリノベーションを経て、ミニシアター的な番組も含めた編成の映画館として2014年に再開している。三重県では「ジストシネマ伊賀上野」が2018年3月に閉館し、既存館が0となった。

奈良県では、数値上では10年間増減はないが、シネコン2館が閉館し(シネマデプト友楽シネマ、MOVIX橿原)、別の2館(シネマサンシャイン大和郡山、ユナイテッド・シネマ橿原)が開館している。

和歌山県では2014年に「イオンシネマ和歌山」が新設され、御坊市、田辺市、新宮市では既存興行館「ジストシネマ」が運営を続けているが、2つの成人映画館は閉館した。滋賀県では10年間ほとんど変化が見られなかった。→ [fig. 31](#)

fig. 31  
近畿地方

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
<b>近畿地方</b>								
シネコン	55	509	47	417	8	92	0	0
ミニシアター/名画座	18	39	19	33	-1	6	2	5
既存興行館等	12	34	27	71	-15	-37	0	0
成人映画館	11	12	19	21	-8	-9	0	0
シネコン以外	41	85	65	125	-24	-40	2	5
<b>近畿地方合計</b>	<b>96</b>	<b>594</b>	<b>112</b>	<b>542</b>	<b>-16</b>	<b>52</b>	<b>2</b>	<b>5</b>
全国シェア	16.1%	16.2%	16.5%	15.5%				
<b>三重県</b>								
シネコン	7	59	5	40	2	19	0	0
ミニシアター/名画座	1	2	1	2	0	0	0	0
既存興行館等	0	0	1	4	-1	-4	0	0
成人映画館	2	2	2	2	0	0	0	0
シネコン以外	3	4	4	8	-1	-4	0	0
<b>三重県合計</b>	<b>10</b>	<b>63</b>	<b>9</b>	<b>48</b>	<b>1</b>	<b>15</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>滋賀県</b>								
シネコン	5	34	5	34	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0	0	0
既存興行館等	1	4	1	4	0	0	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	1	4	1	4	0	0	0	0
<b>滋賀県合計</b>	<b>6</b>	<b>38</b>	<b>6</b>	<b>38</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>京都府</b>								
シネコン	6	64	5	52	1	12	0	0
ミニシアター/名画座	5	13	3	6	2	7	2	5
既存興行館等	2	6	3	6	-1	0	0	0
成人映画館	2	2	2	2	0	0	0	0
シネコン以外	9	21	8	14	1	7	2	5
<b>京都府合計</b>	<b>15</b>	<b>85</b>	<b>13</b>	<b>66</b>	<b>2</b>	<b>19</b>	<b>2</b>	<b>5</b>
<b>大阪府</b>								
シネコン	21	205	18	169	3	36	0	0
ミニシアター/名画座	7	14	10	17	-3	-3	0	0
既存興行館等	0	0	7	14	-7	-14	0	0
成人映画館	4	5	9	11	-5	-6	0	0
シネコン以外	11	19	26	42	-15	-23	0	0
<b>大阪府合計</b>	<b>32</b>	<b>224</b>	<b>44</b>	<b>211</b>	<b>-12</b>	<b>13</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>兵庫県</b>								
シネコン	10	93	9	78	1	15	0	0
ミニシアター/名画座	5	10	5	8	0	2	0	0
既存興行館等	6	14	12	33	-6	-19	0	0
成人映画館	3	3	4	4	-1	-1	0	0
シネコン以外	14	27	21	45	-7	-18	0	0
<b>兵庫県合計</b>	<b>24</b>	<b>120</b>	<b>30</b>	<b>123</b>	<b>-6</b>	<b>-3</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

近畿地方の人口	全国シェア	
2020	22,242,762	17.7%
2011	22,726,242	17.8%
増減(人)	-483,480	
増減率(%)	-2.1%	

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
<b>奈良県</b>								
シネコン	4	34	4	34	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0	0	0
既存興行館等	0	0	0	0	0	0	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>奈良県合計</b>	<b>4</b>	<b>34</b>	<b>4</b>	<b>34</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>和歌山県</b>								
シネコン	2	20	1	10	1	10	0	0
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0	0	0
既存興行館等	3	10	3	10	0	0	0	0
成人映画館	0	0	2	2	-2	-2	0	0
シネコン以外	3	10	5	12	-2	-2	0	0
<b>和歌山県合計</b>	<b>5</b>	<b>30</b>	<b>6</b>	<b>22</b>	<b>-1</b>	<b>8</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 中国・四国地方

[鳥取・島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知]

中国・四国地方の2020年のスクリーン数は287、映画館数は51で、2011年比で映画館数は9減少しているが、スクリーン数は14増加している。日本全体に占める割合は、スクリーン数が7.8%、映画館数が8.6%となっている。この10年間の人口の増減はマイナス4.9%(全国平均マイナス1.5%)で、北海道・東北地方に次いで人口減少率が高い。全人口の8.7%を占めている。

この10年間の変化は比較的少ない。10スクリーン以上の増減があったのは、シネコン1館がオープンした岡山県と徳島県だけである。島根県、香川県では、数値上ではこの10年間全く変化がなかった。

広島県では、2018年、広島市に「イオンシネマ広島西風新都」(9スクリーン)がオープンしたのに対し、既存興行館3館、ミニシアター/名画座2館、成人映画館2館が閉館している。

山口県では、2014年に下関市に「シネマサンシャイン下関」(8スクリーン)が開館したが、既存興行館及びミニシアターの5館13スクリーンがなくなり、既存興行館は0となった。「山口スカラ座」が2012年に閉館して、県庁所在地である山口市に映画館がない状態が続いているが、山口情報芸術センターで毎週末上映が行われ、映画館の不在を補完している。

愛媛県は8館のシネコンがあり、1スクリーン当たりの人口は22,483人、石川県、山形県に次いで、人口に対してスクリーン数が多い県となっている。

中国地方の日本海側、四国地方には県全体で映画館が2-3館という県もあり、高知、鳥取、島根、岡山、山口は1スクリーン当り人口が約44000-69000人の「映画館が少ない」県となっている。高知県では、2019年1月に休館に入った「ウィークエンドキネマM」が2021年に新しい場所で再開する予定。

島根県では、「しまね映画祭」が県内各地で巡回開催され、岡山県の間部真庭市の図書館では毎月上映会が行われており、映画館のない市町村でスクリーン体験を提供する試みとして定着している。→ fig. 32

fig. 32  
中国・四国地方

中国・四国地方の人口		全国シェア
2020	10,921,754	8.7%
2011	11,489,876	9.0%
増減(人)	-568,122	
増減率(%)	-4.9%	

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
<b>中国・四国地方</b>								
シネコン	32	254	27	210	5	44	0	0
ミニシアター/名画座	10	16	11	17	-1	-1	-1	-1
既存興行館等	7	15	16	39	-9	-24	0	0
成人映画館	2	2	6	7	-4	-5	-1	-1
シネコン以外	19	33	33	63	-14	-30	-2	-2
<b>中国・四国地方合計</b>	<b>51</b>	<b>287</b>	<b>60</b>	<b>273</b>	<b>-9</b>	<b>14</b>	<b>-2</b>	<b>-2</b>
全国シェア	8.6%	7.8%	8.8%	7.8%				
<b>島根県</b>								
シネコン	1	6	1	6	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0	0	0
既存興行館等	2	5	3	8	-1	-3	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	2	5	3	8	-1	-3	0	0
<b>島根県合計</b>	<b>3</b>	<b>11</b>	<b>4</b>	<b>14</b>	<b>-1</b>	<b>-3</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>鳥取県</b>								
シネコン	2	15	2	15	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0	0	0
既存興行館等	0	0	0	0	0	0	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>鳥取県合計</b>	<b>2</b>	<b>15</b>	<b>2</b>	<b>15</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>岡山県</b>								
シネコン	3	31	2	20	1	11	0	0
ミニシアター/名画座	1	2	1	2	0	0	0	0
既存興行館等	2	5	2	5	0	0	0	0
成人映画館	0	0	1	1	-1	-1	-1	-1
シネコン以外	3	7	4	8	-1	-1	-1	-1
<b>岡山県合計</b>	<b>6</b>	<b>38</b>	<b>6</b>	<b>28</b>	<b>0</b>	<b>10</b>	<b>-1</b>	<b>-1</b>
<b>広島県</b>								
シネコン	8	68	7	59	1	9	0	0
ミニシアター/名画座	5	8	6	8	-1	0	0	0
既存興行館等	1	2	5	13	-4	-11	0	0
成人映画館	1	1	2	3	-1	-2	0	0
シネコン以外	7	11	13	24	-6	-13	0	0
<b>広島県合計</b>	<b>15</b>	<b>79</b>	<b>20</b>	<b>83</b>	<b>-5</b>	<b>-4</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>山口県</b>								
シネコン	4	29	3	21	1	8	0	0
ミニシアター/名画座	1	1	2	4	-1	-3	0	0
既存興行館等	0	0	4	10	-4	-10	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	1	1	6	14	-5	-13	0	0
<b>山口県合計</b>	<b>5</b>	<b>30</b>	<b>9</b>	<b>35</b>	<b>-4</b>	<b>-5</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>徳島県</b>								
シネコン	2	17	1	8	1	9	0	0
ミニシアター/名画座	1	2	0	0	1	2	0	0
既存興行館等	0	0	0	0	0	0	0	0
成人映画館	0	0	1	1	-1	-1	0	0
シネコン以外	1	2	1	1	0	1	0	0
<b>徳島県合計</b>	<b>3</b>	<b>19</b>	<b>2</b>	<b>9</b>	<b>1</b>	<b>10</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>香川県</b>								
シネコン	3	23	3	23	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	1	2	1	2	0	0	0	0
既存興行館等	0	0	0	0	0	0	0	0
成人映画館	1	1	1	1	0	0	0	0
シネコン以外	2	3	2	3	0	0	0	0
<b>香川県合計</b>	<b>5</b>	<b>26</b>	<b>5</b>	<b>26</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
<b>愛媛県</b>								
シネコン	8	56	7	49	1	7	0	0
ミニシアター/名画座	1	1	1	1	0	0	0	0
既存興行館等	1	2	1	2	0	0	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	2	3	2	3	0	0	0	0
<b>愛媛県合計</b>	<b>10</b>	<b>59</b>	<b>9</b>	<b>52</b>	<b>1</b>	<b>7</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>高知県</b>								
シネコン	1	9	1	9	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0	-1	-1
既存興行館等	1	1	1	1	0	0	0	0
成人映画館	0	0	1	1	-1	-1	0	0
シネコン以外	1	1	2	2	-1	-1	-1	-1
<b>高知県合計</b>	<b>2</b>	<b>10</b>	<b>3</b>	<b>11</b>	<b>-1</b>	<b>-1</b>	<b>-1</b>	<b>-1</b>

## 九州・沖縄地方

[福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄]

九州・沖縄地方の2020年のスクリーン数は444、映画館数は76で、2011年比で映画館数は4、スクリーン数は62増加している。日本全体に占める割合は、スクリーン数が12.1%、映画館数が12.7%となり、約2%増加している。この10年間の人口の増減はマイナス1.5%(全国平均マイナス1.4%)で、福岡県と沖縄県では人口が増加している。全人口の11.3%を占めている。

九州・沖縄地方で、この10年間で10スクリーン以上の増減があるのは、2つのシネコンが開館した大分と鹿児島、シネコン2館とミニシアター3館が開館してスクリーン数が23増となった沖縄である。

沖縄では、2019年にユナイテッド・シネマが進出し「ユナイテッド・シネマPARCO CITY浦添」(11スクリーン)が開館、沖縄市にはミニシアター「シネマプラザハウス1954」が開館した。また、2015年に「シアタードーナツ」が開館している。2018年に「日本最南端の小劇場」としてオープンした「ゆいロードシアター」(石垣市)は、コロナ禍の中、長期休館を発表、元スタッフらによって「ゆいシネマを守る会 日本最南端の小劇場再建プロジェクト」が立ち上げられた。

大分県は、2015年「TOHOシネマズアミュプラザおおいた」が開館、2020年3月には中津市の「イオンモール三光」内に「セントラルシネマ三光」(8スクリーン)が開館した。大分では、数値上では既存興行館は0となっているが、大分市の「セントラルシネマ」は2010年の閉館後、地下のシアターが「シネマ5bis」として再開、老舗の映画館「別府ブルーバード劇場」は、現在はミニシアター的なプログラムを組む映画館となって映画祭なども実施、人気を集めている。「日田シネマテーク・リベルテ」も2009年以降は、カフェやギャラリーもあるミニシアターとして運営されている。

福岡県では、福岡市のミニシアター2館(シネテリエ天神、シネリーブル博多駅)が開館した後、市内にミニシアター/名画座が「KBCシネマ」1館のみという状態が続いていたが、2020年4月に木下グループの3館目の映画館「キノシネマ天神」が開館した。また、福岡市総合図書館の映

fig. 33  
九州地方・沖縄

九州地方・沖縄の人口	全国シェア
2020	14,199,982 11.3%
2011	14,578,250 11.4%
増減(人)	-1,947,402
増減率(%)	-1.5%

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
<b>九州地方・沖縄</b>								
シネコン	42	387	34	317	8	70	2	15
ミニシアター/名画座	20	32	13	22	7	10	1	3
既存興行館等	8	17	12	28	-4	-11	0	0
成人映画館	6	8	13	15	-7	-7	-1	-1
シネコン以外	34	57	38	65	-4	-8	0	2
<b>九州地方・沖縄合計</b>	<b>76</b>	<b>444</b>	<b>72</b>	<b>382</b>	<b>4</b>	<b>62</b>	<b>2</b>	<b>17</b>
全国シェア	12.7%	12.1%	10.6%	10.9%				
<b>福岡県</b>								
シネコン	16	158	16	158	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	3	7	2	4	1	3	1	3
既存興行館等	3	8	4	13	-1	-5	0	0
成人映画館	2	4	4	6	-2	-2	-1	-1
シネコン以外	8	19	10	23	-2	-4	0	2
<b>福岡県合計</b>	<b>24</b>	<b>177</b>	<b>26</b>	<b>181</b>	<b>-1</b>	<b>-1</b>	<b>0</b>	<b>2</b>
<b>佐賀県</b>								
シネコン	2	18	2	18	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	2	3	1	2	1	1	0	0
既存興行館等	0	0	0	0	0	0	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0	0	0
シネコン以外	2	3	1	2	1	1	0	0
<b>佐賀県合計</b>	<b>4</b>	<b>21</b>	<b>3</b>	<b>20</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>長崎県</b>								
シネコン	3	24	3	24	0	0	0	0
ミニシアター/名画座	1	1	1	1	0	0	0	0
既存興行館等	0	0	2	4	-2	-4	0	0
成人映画館	0	0	1	1	-1	-1	0	0
シネコン以外	1	1	4	6	-3	-5	0	0
<b>長崎県合計</b>	<b>4</b>	<b>25</b>	<b>7</b>	<b>30</b>	<b>-3</b>	<b>-5</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>熊本県</b>								
シネコン	6	53	5	44	1	9	0	0
ミニシアター/名画座	2	4	1	3	1	1	0	0
既存興行館等	0	0	1	1	-1	-1	0	0
成人映画館	1	1	3	3	-2	-2	0	0
シネコン以外	3	5	5	7	-2	-2	0	0
<b>熊本県合計</b>	<b>9</b>	<b>58</b>	<b>10</b>	<b>51</b>	<b>-1</b>	<b>7</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>大分県</b>								
シネコン	4	38	2	20	2	18	1	8
ミニシアター/名画座	5	5	4	4	1	1	0	0
既存興行館等	0	0	1	2	-1	-2	0	0
成人映画館	1	1	1	1	0	0	0	0
シネコン以外	6	6	6	7	0	-1	0	0
<b>大分県合計</b>	<b>10</b>	<b>44</b>	<b>8</b>	<b>27</b>	<b>2</b>	<b>17</b>	<b>1</b>	<b>8</b>
<b>宮崎県</b>								
シネコン	2	16	1	9	1	7	1	7
ミニシアター/名画座	-	1	-	1	0	0	0	0
既存興行館等	3	7	3	7	0	0	0	0
成人映画館	1	1	1	1	0	0	0	0
シネコン以外	4	9	4	9	0	0	0	0
<b>宮崎県合計</b>	<b>6</b>	<b>25</b>	<b>5</b>	<b>18</b>	<b>1</b>	<b>7</b>	<b>1</b>	<b>7</b>
<b>鹿児島県</b>								
シネコン	4	36	2	20	2	16	0	0
ミニシアター/名画座	2	2	2	2	0	0	0	0
既存興行館等	1	1	0	0	1	1	0	0
成人映画館	0	0	1	1	-1	-1	0	0
シネコン以外	3	3	3	3	0	0	0	0
<b>鹿児島県合計</b>	<b>7</b>	<b>39</b>	<b>5</b>	<b>23</b>	<b>2</b>	<b>16</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

像ホール「シネラ」でも、連日上映が行われており、名画座としての役割を果たしている。

佐賀県では2010年以降、佐賀市以外の市町村には映画館がない状態が続いていたが2019年10月に唐津市にミニシアター「シアター・エンヤ」が開館、唐津市には約30年ぶりに映画館が復活した。また、長崎県では佐世保市と諫早市にあった既存興行館が2011年に相次いで閉館し、映画館は長崎市と佐世保市にあるのみとなっている。

熊本は、2016年の震災で大きな被害を受けたがその影響で映画館が閉館することはなかった。2019年に「TOHOシネマズ熊本サクラマチ」が開館し、スクリーン数は7増となった。

宮崎県では長く変化のない状態が続いていたが、2020年11月に「ワンダーアティックシネマ」(7スクリーン)が宮崎駅前のショッピングモール「アミュプラザみやざき」内に開館、2スクリーンで運営していた「宮崎キネマ館」は移転して、2021年4月、4スクリーンの映画館としてリニューアルオープンした。→ [fig. 33](#)

	2020		2011		2011→2020		2019→2020	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
沖縄県								
シネコン	5	44	3	24	2	20	0	0
ミニシアター/名画座	5	9	2	5	3	4	0	0
既存興行館等	1	1	1	1	0	0	0	0
成人映画館	1	1	2	2	-1	-1	0	0
シネコン以外	7	11	5	8	2	3	0	0
沖縄県合計	12	55	8	32	4	23	0	0